

## 8. 語句の説明

陶磁文化館の監査にかかる本報告書において、「監査結果」及び「監査意見」を記載しているが、それぞれの意味は次の通りである。

監査結果……………一連の事務手続等の中で、法令、規則、条例等に違反している場合、或いは違法ではないが社会通念上適当でないと考えられる場合に該当する事項を記載している。

監査意見……………一連の事務手続等の中で、組織及び運営の面で合理化に役立つものとして専門的見地から改善を提言する事項を記載している。

## 第2. 陶磁文化館の概要

### 1. 施設の目的

佐賀県西部の有田町を中心とする肥前地域では、朝鮮半島の陶磁器文化を携えて来た李参平によって泉山で良質の磁石が発見されたことによって、良質の磁器の生産が始まった。有田で生産された磁器は、伊万里港から全国各地に運ばれるとともにオランダ東インド会社を通じて遠くはヨーロッパまで輸出された。現在も古伊万里と呼ばれ、多くの陶磁器愛好家の目を楽しませている。

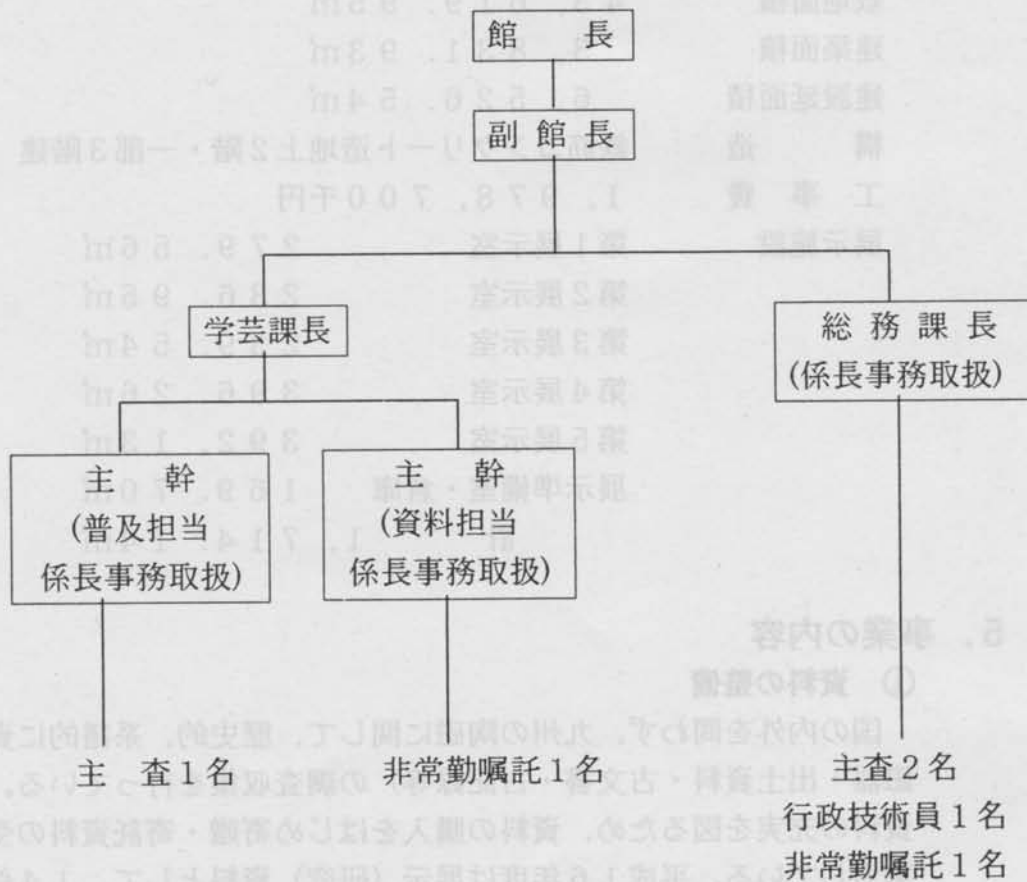
陶磁文化館は、肥前の陶磁器をはじめ、九州各地の陶磁器に関し、その文化遺産の保存と陶芸文化の発展に寄与するため、歴史的・美術的・産業的に重要な資料を収集・保存・展示し、あわせて調査研究や教育普及の活動を行うことを目的として設立された。九州の陶芸文化の総合的拠点となること、併せて国際交流を積極的に図れるよう努力している。

### 2. 沿革

昭和48年	1月8日	有田町長外、国際陶芸美術館建設について 県に陳情
52年	6月	佐賀陶芸文化センター（仮称）建設計画案 を作成
53年	2月28日	基本設計完了

53年	3月29日	建設費関係予算決定(約19億円)	
53年	11月15日	建設工事入札	
53年	12月27日	用地譲渡契約締結(有田町より無償譲渡)	
54年	1月16日	起工式	
54年	7月6日	正式名称「佐賀県立九州陶磁文化館」に決定	
55年	3月25日	佐賀県立九州陶磁文化館竣工	
55年	11月1日	開館	
平成	5年	3月25日	柴田夫妻コレクション展示室(第5展示室)完成
6年	4月1日	旧窯業技術センター跡地(12,011m <sup>2</sup> )が当館用地となる。	
12年	2月22日	玄関自動ドア設置	
14年	3月20日	来館者用トイレ改修	

### 3. 組織図



## 在籍人員

	館長	副館長	総務課	学芸課	計
事務職員	1		3		4
学芸員		1		4	5
技術員			1		1
嘱託			1	1	2
計	1	1	5	5	12

教育委員会部局 事務 6名、非常勤嘱託 2名

知事部局から出向 事務 3名、技術員 1名

非常勤嘱託は、展示の案内及びデータ入力管理作業を行っている。

## 4. 施設の概要

所在地	佐賀県西松浦郡有田町中部乙3100-1	
敷地面積	43,619.95㎡	
建築面積	3,831.93㎡	
建設延面積	6,526.54㎡	
構造	鉄筋コンクリート造地上2階・一部3階建	
工事費	1,978,700千円	
展示施設	第1展示室	279.56㎡
	第2展示室	236.95㎡
	第3展示室	239.54㎡
	第4展示室	396.26㎡
	第5展示室	392.13㎡
	展示準備室・倉庫	169.70㎡
計	1,714.14㎡	

## 5. 事業の内容

### ① 資料の整備

国の内外を問わず、九州の陶磁に関して、歴史的、系譜的に資料（陶磁器・出土資料・古文書・古記録等）の調査収集を行っている。また、資料の充実を図るため、資料の購入をはじめ寄贈・寄託資料の受入にも努力している。平成16年度は展示（研究）資料として、14件の資料

の購入と59件の寄贈を受けている。購入した図書資料は、6件である。

## ② 展示活動

第1展示室は一般展示室と茶室、第2展示室は現代の九州陶芸、第3展示室は九州の古陶磁を展示している。第4展示室は固定展示室で、九州の陶磁の歴史を、実物、図表・年表・写真などによって学ぶ仕組みになっている。第5展示室は柴田夫妻寄贈のコレクション(約1万点収蔵)の展示で江戸時代の有田焼を約1千点展示している。第1から第3展示室は、企画展あるいは随時個人もしくは団体の陶芸展も開催している。第2・第3・第5展示室は毎年12月に全面入替している。

## ③ 教育普及活動

陶芸文化講座「名品に触って観る」を行って陶芸文化に対する理解を深め、さらに陶芸教室や小学生を対象とした親子陶芸教室の開催を通じて創作活動の場を提供するなど、広く陶芸文化に関する普及活動を行っている。

## ④ 調査研究活動

九州陶芸あるいは陶磁産業を歴史的・総合的に明らかにするために、考古学・美術工芸史など色々な分野にわたる資料・文献の調査収集に努めている。また学術講演会や研究の交流を通じて研究の進展を図っている。さらに、研究紀要の発行を行っている。

## ⑤ 広報活動

館報「セラミック九州」を刊行し、全国に配布している。さらに15年度中の事業及び購入・寄贈資料について、年報・目録にまとめ刊行している。

## ⑥ 開館時間及び休館日

開館時間 午前9時より午後6時まで(平成17年4月より)

休館日 毎週月曜日(月曜日が休日の場合は開館、規則上は月曜が休日の場合はその翌日が休館。しかし利用者の利便性を考えて翌日も開館している)

12月29・30・31日

## 6. 平成16年度における事業の状況

4月29日 第101回九州山口陶磁展(～5.9)

5月15日 第43期陶芸教室・第3期ボランティア養成講座  
(～7.17)

5月19日 第22回新工芸西九州工芸展(～5.30)

6月1日 新收藏品展(～6.24)

- 6月23日 「年報・資料目録 平成15年度NO.23」刊行
- 7月 4日 第20回現代工芸美術九州会展(～7. 11)
- 7月13日 第3回伊万里・有田焼伝統工芸士展(～7. 25)
- 7月22日 親子陶芸教室 1回目
- 7月24日 第44期陶芸教室・ボランティア養成講座開講  
(～9. 25)
- 7月29日 小学生親子やきもの体験バスツアー
- 8月 3日 古唐津と太郎右衛門窯展(～8. 26)
- 8月 5日 親子陶芸教室 2回目
- 8月16日 公立小・中学校教務主任体験研修(～8. 18)
- 平成16年度博物館実習(～8. 27)
- 8月31日 第2回 日韓交流展(～9. 5)
- 9月11日 特別企画展「初期伊万里展」(～10. 24)
- 9月30日 「研究紀要 第3号」刊行
- 10月 1日 九州陶磁文化館協議会開催
- 10月30日 第2回 陶千坊展(～11. 7)
- 11月 9日 テーマ展1「寄贈品による名品選」(～12. 12)
- 12月15日 テーマ展2 新春展「干支 酉の文様」(～1. 16)
- 12月24日 「古伊万里の見方シリーズ(1)種類」刊行
- 1月25日 第36回 有田工業高校卒業制作展(～1. 30)
- 2月 1日 第23回 西松浦郡小中学校学童美術展(～2. 6)
- 2月 9日 テーマ展3「やきものの種類」(～2. 20)
- 2月11日 第15回 九州近世陶磁学会(～2. 13)
- 2月19日 平成16年 第1回～第4回陶芸文化講座(～2.20)
- 2月22日 九州陶磁文化館協議会開催
- 第16回 九州デザイナー協会展(～2. 27)
- 3月 1日 第19回 有田窯業大学校卒業制作展(～3. 6)
- 3月 8日 第20回 有田陶交会展(～3. 13)
- 3月15日 テーマ展4「食のうつわー江戸時代の碗・皿」  
(～4. 5)
- 3月31日 「セラミック九州 NO. 41」刊行

## 7. 常設展観覧料の推移

開館当初から現在までの陶磁文化館における常設展観覧料の推移は、以下の表のような状況である(なお、特別企画展の開催期間は、下記の表とは異なり特別企画展の観覧料を徴収するようになっている。)

・常設展観覧料の推移

区 分	昭和55年度	昭和63年度	平成4年度	平成9年度	平成10年度以降	
個人	大 人	150	200	200	210	無 料
	大学生	100	150	150	150	無 料
	高校生	100	150	無 料	無 料	無 料
	小中学生	50	70	無 料	無 料	無 料
団体	大 人	100	150	150	150	無 料
	大学生	70	100	100	100	無 料
	高校生	70	100	無 料	無 料	無 料
	小中学生	50	50	無 料	無 料	無 料

平成4年に高校生以下並びに障害者を無料とし、その後平成10年度より全て無料となっている。平成4年度の高校生以下並びに障害者の方の無料化については、学習の場を無料で提供することにより利用の増進を図り、郷土の歴史、文化への関心を高めるとともに青少年の健全育成に資することを目的として、また、学校週5日制実施後ますます重要になるとと思われる「学校外活動」を行政面より支援するため、さらには、障害者の方が芸術や文化に親しむ機会を拡大する等の理由による。

平成10年度の全面無料化は、県民に広く芸術作品等の鑑賞の機会を拡大し、芸術文化の振興を図るという理由により行われたものである。県内の他の博物館も同様に常設展は無料となっている。

## 8. 入館者の推移

昭和55年の開館以来、陶磁文化館は入館者数を伸ばすために様々な検討や施策を実施し努力を重ねてきた。しかし常設展の入場者数は一進一退を続けており、特別企画展で入館者の増加が図られているものの非常に難しい問題であり、大きな改善をもたらすという状況にまでは至っていない。

「世界焔の博覧会」が開催された、平成8年の入館者数は突出しているが、年度の途中から開館した初年度の昭和55年度と、平成8年度を除いた年間の平均入館者数は約77,700人である。ここ数年での傾向としては、平成14年度からは過去の平均を割り込み、平成16年度においては約70,000人と徐々に減少する傾向にある。

陶磁文化館の開館以来の来館者数の推移は、以下のようになっている。

単位:人

年度	常設展	特別企画展	計
昭和55年度	21,542	32,907	54,449
56	64,877	12,911	77,788
57	67,315	12,136	79,451
58	50,981	22,261	73,242
59	53,579	10,273	63,852
60	55,723	16,032	71,755
61	51,585	12,846	64,431
62	61,135	24,796	85,931
63	66,887	12,786	79,673
平成元年度	74,727	15,743	90,470
2	79,834	14,090	93,924
3	76,766	15,157	91,923
4	51,471	24,627	76,098
5	62,635	22,660	85,295
6	59,777	13,493	73,270
7	46,195	37,122	83,317
8	25,703	368,787	394,490
9	64,299	14,415	78,714
10	61,562	18,271	79,833
11	61,872	13,856	75,728
12	55,455	20,020	75,475
13	43,049	35,148	78,197
14	56,223	15,890	72,113
15	66,638	0	66,638
16	59,738	10,691	70,429
合計	1,439,568	796,918	2,236,486

注) 平成15年度から、特別企画展は隔年開催となっている。

## 9. 過去3年間の歳入歳出の状況

過去3年間の収支状況を、歳入決算報告書、歳出決算報告書を基に作成した。金額の単位は千円で表示し、千円以下の金額はそれぞれ切り捨てている。

この収支状況は、現地機関としての陶磁文化館で発生した収入及び支出だけであり、このほかに県職員の人件費や減価償却を行った場合の減価償却費は含まれていない。

項 目	H14年度	H15年度	H16年度
喫茶店使用料	301	282	266
電柱	22	22	22
展示室使用料	0	0	593
特別企画展観覧料	6,996	0	3,734
教育使用料計	7,319	304	4,615
函録代	2,249	4,064	2,671
陶芸教室材料代	0	0	102
喫茶店管理費等	129	162	170
労働保険料	69	68	71
その他	3	0	0
雑入計	2,450	4,294	3,014
収入合計	9,769	4,598	7,629

陶芸教室材料代は、平成16年度より徴収を始めた。

平成15年度から特別企画展を隔年開催することになったので、平成15年度の特別企画展観覧料収入はない。

役務費	80	80	80
総務費合計	80	80	80
需用費	2	2	0
教育総務費計	2	2	0
職員手当等	60	90	160
社会教育総務費計	60	90	160
旅費	88	50	0
備品購入費	31,443	40,260	32,232
文化財保護費計	31,531	40,310	32,232
報酬	4,295	5,477	4,413
共済費	1,569	1,236	1,294
賃金	6,587	5,801	6,082
報償費	486	523	468
旅費	2,410	1,435	1,262
需用費	19,866	19,207	16,906
役務費	3,233	2,819	2,803
委託料	39,279	36,041	34,875
使用料及び賃借料	82	95	95
工事請負費	4,200	4,043	2,188
備品購入費	278	0	1,772
負担金補助及び交付金	60	60	10,060
公課費	0	38	0
博物館費計	82,345	76,775	82,218
教育費合計	113,938	117,177	114,610
支出合計	114,018	117,257	114,690

## 10. 館蔵資料の一覧

平成16年度末における館蔵資料は次のとおりである。



	件 数			点 数		
	購入	寄贈	計	購入	寄贈	計
唐津系陶器	40	51	91	48	71	119
初期伊万里様式	36	203	239	61	312	373
古伊万里・正保様式	52	162	214	108	263	371
古伊万里・承応様式	7	273	280	19	444	463
古伊万里・寛文様式	59	896	955	113	1,681	1,794
古伊万里・延宝様式	36	782	818	57	1,741	1,798
古伊万里・元禄様式	86	1,255	1,341	132	3,154	3,286
古伊万里・宝暦様式	7	373	380	21	1,447	1,468
古伊万里・天明様式	5	457	462	21	1,384	1,405
古伊万里・文政様式	24	308	332	31	852	883
古伊万里様式計	276	4,506	4,782	502	10,966	11,468
柿右衛門様式	27	85	112	31	196	227
鍋島藩窯様式	54	90	144	62	180	242
近世の肥前磁器計	433	4,935	5,368	704	11,725	12,429
長崎の陶磁器	51	45	96	121	103	224
福岡の陶磁器	39	30	69	43	35	78
熊本の陶磁器	31	20	51	61	24	85
大分の陶磁器	3	1	4	3	1	4
宮崎の陶磁器	2	1	3	2	1	3
鹿児島島の陶磁器	62	8	70	63	9	72
沖縄の陶磁器	77	3	80	77	3	80
近世の九州陶磁(県外)計	265	108	373	370	176	546
佐賀県 近代	35	269	304	57	564	621
九州(県外) 近代	6	11	17	7	19	26
近代資料計	41	280	321	64	583	647
九州以外 近世	10	110	120	19	161	180
九州以外 近代	3	41	44	3	74	77
陶磁器関連資料	8	14	22	15	24	39
九州以外他計	21	165	186	37	259	296
中国の陶磁器	28	143	171	37	190	227
朝鮮の陶磁器	0	58	58	0	58	58
アジアの陶磁器	0	17	17	0	17	17
ヨーロッパの陶磁器	39	8	47	40	17	57
世界の陶磁器計	67	226	293	77	282	359
佐賀県 I	47	35	82	47	52	99
佐賀県 II 松本佩山	0	42	42	0	63	63
長崎県	3	3	6	3	3	6
福岡県	3	9	12	3	9	12
熊本県	2	0	2	2	0	2
大分県	0	0	0	0	0	0
宮崎県	0	0	0	0	0	0
鹿児島県	2	1	3	2	1	3
沖縄県	0	0	0	0	0	0
九州以外	2	0	2	2	0	2
国外	2	12	14	2	13	15
現代作家作品計	61	102	163	61	141	202
合 計	888	5,816	6,704	1,313	13,166	14,479

買一の林資業誌 . 0 1

るあじりほくのたけ科資業誌るあはこ未到平る | 加平

## 1.1. 資料収集の基本的な考え方

陶磁文化館における資料収集の基本的な考え方は、次のとおりである。

- ① 九州各地の代表的な窯場の作品を、年代、器形、様式、技術を考慮しながら体系的に収集する。
- ② とくに日本の陶磁史において輝かしい歴史を持つ唐津焼、有田焼、鍋島焼は地元佐賀県のやきものであり、製作された量も多く種類が豊富であるため重点的に収集する。
- ③ 収集する作品は、展示のための鑑賞的な作品だけでなく、研究資料として重要な資料も収集する。
- ④ 九州陶磁を収集の中心とするが、これらと比較したり影響関係を示すことができる他産地の陶磁資料も必要に応じて収集する。
- ⑤ 陶磁器に関する古文書や絵図などの歴史資料を収集する。
- ⑥ 古陶磁だけでなく、近代や現代の作品も収集する。

このような方針のもと、実際の選定・購入手続は、おおよそ以下のような手続である。

通常は学芸員が資料調査等で選定した候補資料や、古美術商等が持ち込んだもののなかから、館内の検討会で購入に値するものかどうかを検討する。検討会は、陶磁文化館所属の学芸員・館長・副館長から構成されている。その際の選定基準としては、購入金額（購入予算額全体との兼ね合いや、過去の購入品の値段と照らし合わせるなど）、展示品としての価値や見栄え、現状の陶磁文化館で所有している状況に照らして分野として不足気味であるものなど弱い部分を補強するといった観点、などを考慮して選定を行っている。

これら館内での検討を経た後、著名な有田焼の作家や、県外の陶磁器に造詣が深い学芸員などから構成される資料専門委員会において再度検討が行われる。その際には、非常に高度な専門的見地から様々なアドバイスや、購入予定品目の購入順位さらには購入金額の妥当性についての意見をいただき、再度値引交渉を行うなどしながら、最終的に購入を希望する陶磁器が決定される。

購入の予算に関しては、陶磁文化館やそれ以外の各県立博物館全体での購入予算のもとに、その配分額の範囲内という仕組みになっているため、上記専門委員会の後、県内の各博物館からの希望購入品目を調整する資料収集調整委員会が開催され、ここにおいて最終的に陶磁文化館が購入のために割り当てられる予算額や、購入品目が決定される。

全ての県立博物館合計での購入予算額が存在するため、例えばある年度においてある博物館が多額に購入する必要性があれば、他の博物館の